



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2018・7 第138号



暑中お見舞い申し上げます。関東では6月29日に梅雨が明けてしまい、猛暑に見舞われています。6月に梅雨が明けるのは1951年に統計を取り始めて、初の出来事とか。体調管理には気をつけたいものです。一方、西日本では梅雨末期の集中豪雨で、過去に例を見ない甚大な被害が出ております。被害にあわれた方々にお見舞い申し上げますと同時に、一刻も早い復旧を願うばかりです。

さて1985年に筑波科学技術博覧会が開催されてから、30有余年が過ぎました。一方で、約50年前の大阪国際博覧会で、「芸術は爆発だ」と叫んだ岡本太郎氏の手による太陽の塔が修理復元されて、公開される運びとなりました。つくばにも同氏の手による「未来を視る」像が制作されて、現在は万博記念公園駅に移設展示されています。科学博の会場となった御幸が丘には、今では多くの企業の研究所が立地しています。研究所の建築に当たって、県企業局はとにかく注文の多い料理人だったそうです。そのお蔭で、万博の跡地は緑豊かなオープンスペースの環境となり、見え隠れする研究所は、とても意匠的で落ち着いた佇まいです。また、ある製薬会社は合併を機に建物をすべて作り直すなど、日本企業のパワフルさも感じられます。一昔前までは陸の孤島でした。しかし今では、つくばエクスプレスの研究学園駅や圏央道のインターチェンジも近くにあり、つくば駅が成熟した大人の雰囲気ならば、研究学園駅は若人の活力に満ちた様相を示し、賑わいはこちらに移ったようです。しかし、歩いて用事が済むほどの距離ではないので、車や自転車が必須なところは変わっていません。



万博記念公園には広大な芝生広場が広がっています。つくば市は芝生産量が日本一ですから、芝生広場があるのもうなずけます。そこではキャッチボールやバトミントンなど思い思いの運動や、お弁当を広げるには最適の広場です。写真は広場にある「科学の門」です。科学者の顔をモニュメントしているのですが、肉眼で見る三次元の世界では明確にはわかりませんでした。しかし二次元の写真では鮮明に浮かび上がりまして、なるほどと納得しました。

ところで新聞の記事にありましたが、負の五輪遺産とかもあるそうで、記憶に新しいリオ五輪では、多くの施設が使われる事も無く、閉鎖されて管理が行き届かないそうです。昔は五輪開催が開発の起爆剤にもなったのですが、今では重荷になってしまいかねません。その意味では、建物が姿を現し始めた、2020年開催の東京オリンピック後の施設も気になるところです。

さて、ニッサンメールマガジン第138号をお届けします。

L-カルニチンを種豚用飼料として認可

農林水産省消費・安全局長は7月2日付で、L-カルニチンを種豚用飼料に添加する飼料添加物として指定しました。

L-カルニチンは、必須アミノ酸のリジンとメチオニンから生合成されます分子量 161.21 の非常に小さな化合物です。骨格筋肉に多く存在しており、脂質の代謝に必要な不可欠な物質です。脂質の代謝は、細胞内のミトコンドリア内で行われますが、脂質単独ではミトコンドリアの膜を通過できません。脂質が体内に取り込まれると脂肪酸に分解され、脂肪酸+L-カルニチンの結合によりミトコンドリア内に運ばれてエネルギーへ変換されます。

L-カルニチンを給与すると母豚の生産性と子豚の発育が良くなると報告されていますので、今後の利活用が拡大するものと思われます。

外国人材の受け入れ拡充

政府は骨太方針 2018 で、一定の専門性と技能を持つ外国人が就労できる新たな在留資格の創設を決定しました。新資格の創設は、深刻な人出不足への対応を求める産業界の要望に応えるもので、農業、建設、製造などの5業種となります。受け入れは即戦力となることから、所管官庁が定める技能や日本語の試験合格を条件に、通算5年間の在留が認められますが、家族の帯同は基本的には認められないようです。種々の内在する問題点も指摘されていますが、外国人労働者が魅力を感じる職場環境整備が最も重要であると言えます。

肉用子牛取引価格、黒毛和種、交雑種ともに下落が継続

(独)農畜産業振興機構では、子牛の市場価格動向を公表しました。平成29年7月の牛肉需給を見ますと、生産量は2万8628トン(前年同月比1.3%増)と5カ月連続で前年同月を上回りました。品種別では、乳用種が7651トン(同5.8%減)と前年同月をやや下回ったものの、和牛が1万3242トン(同0.4%増)とわずかに前年同月を上回り、交雑種も酪農家での黒毛和種交配率の上昇を背景に7381トン(同12.3%増)とかなり大きく増加し、13カ月連続で前年同月を上回りました。

輸入量は、冷蔵品が5カ月連続で2万トン超えの2万2022トン(同4.6%増)と前年同月をやや上回った一方、冷凍品は3万4324トン(同6.5%減)と3カ月ぶりに前年同月を下回ったことから、全体では5万6387トン(同2.5%減)となりました。推定出回り量は、3カ月ぶりに前年同月を下回る7万9497トン(同2.9%減)となり、推定期末在庫は前月から5311トン積み増し、11万3667トン(同10.4%減)と19カ月連続で前年同月を下回りました。

肉用子牛取引価格(全国・雌雄平均)の推移を見ますと、黒毛和種については、高齢化や後継者不足による繁殖農家の減少に加え、平成23年の東日本大震災および大規模畜産業者の経営破綻の影響による繁殖雌牛の減少、これに伴う出生頭数の減少を背景に、24年以降、右肩上がりでの推移してきました。

平成 28 年度の黒毛和種の肉用子牛取引価格は、年度を通じて高値で推移し、12 月には、当機構が取引情報の収集を開始した 2 年度以降で最高値となる 85 万 2287 円を記録しました。29 年度に入っても、高値が続いていましたが、7 月は 74 万 8891 円（前年同月比 4.0%安）と 2 カ月連続で下落となりました。この要因として、7 月の取引頭数がわずかに前年同月を上回ったことに加え、昨年度に比べ和牛の枝肉売価格が下落傾向にあることで肥育農家の購買力が低下していることが挙げられます。



ホルスタイン種については、酪農家の離農の増加や乳用牛への黒毛和種交配率の上昇などを背景に、近年は出生頭数が減少傾向で推移する中、取引形態は、和牛と異なり、相対取引が多いものの、市場出荷頭数は増加しています。

ホルスタイン種の価格は、出生頭数の減少を受け、27 年 12 月に 1 頭当たり 25 万 1787 円まで上昇した後、落ち着きを見せ、弱含みで推移しました。28 年 11 月以降再び上昇し、29 年 7 月は 22 万 9748 円（同 7.1%高）と 13 カ月ぶりに前年同月を上回りました。



今後もホルスタイン種については、出生頭数の減少が見込まれることから、高値で推移するとみられます。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用にPDFファイルを添付しました。PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

ニッサン情報 第97号の概要および URL

カルシウムと酢の相性について紹介します。カルシウムは金属イオンですので、クエン酸などのキレート剤を用いてキレート化することで、吸収率がアップします。また、乳熱はカルシウムに依存する疾病ですが、分娩直後とその翌日にカルシウム溶液を飲ませることで、かなりの予防効果があります。これらの情報について解説しています。

「ニッサン情報」は、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「技術情報」をクリックし、「ニッサン情報」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。

QR コード

このメールマガジンを紙媒体でお読みの方が、容易に[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできるように QR コードを添付しました。

